

柱1 ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち

資料3

1-1 公害のない安心・安全な暮らしの確保

- 1-1-1 事業活動等から生じる典型7公害に係る環境基準及び関連規制を満たします。
- 1-1-2 ため池の水質改善を図ります。
- 1-1-3 河川・海域の水質改善を図ります。
- 1-1-4 地場産業である畜産業の発展のため、ふん尿処理に起因する臭気について、対策を図ります。

1-2 快適な市民生活環境の確保

- 1-2-1 交通流円滑化・交通量低減対策を図り、交通渋滞を解消します。
- 1-2-2 住環境の向上を図るため、市街地を整備します。
- 1-2-3 生活に起因する環境問題について、適切な対策を図ります。

パートナーシップ会議評価

各委員評価

AA	0人	B	1人
A	11人	C	0人



AA

良好です



A

概ね良好です



B

改善・見直しの必要があります



C

改善・見直しを行い、一層の努力が必要です

【評価できる点】

1-1 全体に関すること

- 概ね目標を達成できていること。
- 目標値から見て概ね良好と思います。
- 大気汚染、河川の水質などの公害のないまちづくりへの見直しや対策が継続して行われて、成果が表れていることは評価できる。
- 大気汚染、河川の水質などの典型7公害が着実に改善されたことは評価される。
- 川、池の水質調査結果は半田市の自然環境を的確に示すものとして評価できる。

1-1-1

- 大気汚染に係る環境基準達成率が100%に保たれている点。
- 大気汚染に係る維持・管理がよくなされていること。
- 大気汚染に係る環境基準達成率は評価できる。

1-1-3

- 一部の河川を除きBODが改善方向にあり、評価できる。
- 一部の河川を除いて、水質が改善又は現状維持されていることは評価できる。
- 河川BOD濃度が、矢勝川以外で概ね目標値を達成してきている点。
- 公共下水道普及率などが着実に改善され、生活環境が改善されたことは評価できる。
- 公共下水道の整備率が順調に上がっている点。

1-1-4

- 臭気に対して様々な取り組みができている点。
- 畜産業からの臭気は、若干、減ったように思われる。これは今までの対策の結果であろうと評価できる。

1-2-1

- 拡幅ではないが側溝整備に伴って自転車が通りやすくなった箇所が増えたことは評価できる。

【今後の課題及び期待したい点】

1-1-1

○大気汚染の長期目標値は％でなく、ppm や mg を使いたい。

1-1-3

○矢勝川の水質が向上しない点は、今までとは違う発想で改善していく施策を考えていただきたい。

○矢勝川の環境基準達成に向けて、何らかの対策がなされること。

○矢勝川のBODについて早急な改善対策が必要。

○一部の河川（矢勝川等）の水質について、一層の啓発を行う等により改善することを期待する。

○「自然環境に配慮した池や川の整備」の言葉通りの工事が、目に見える形で、一つでも実行されるとよい。

○川とその上流の水源（池）のBOD値が分かる一覧表があるとよい。

○水質分析調査でのBOD、COD、SS、DOの各指標は、一般市民になじみがなく理解し難い。各指標が環境に及ぼす影響を分かり易くして市民に理解を得る必要がある。特に、水質に関して目標未達のものについて原因と具体的対策による推定効果の明示が大切。

○BOD数値目標以外に、河川の生物生息個体数を指標に盛り込んでください。定期、定点観測をし、公表すれば市民に身近な河川となります。

○下水道の普及・整備がここ数年横ばい状態は河川にも影響を与えているのではないか。特に矢勝川の水質改善には効果的な対策を期待します。

○公共下水道の整備率、普及率ともに H29、H30 と B 評価継続中。方針変更ならば期の途中見直し等必要。

○水質浄化方法等、ミツカン等企业参画の呼びかけに期待します。

○ため池を市民が大切にしたいと思うような何か良い方法の策定に期待します。

1-1-4

○臭気低減対策を一層推進して、市街地において悪臭が低減されることを期待する。

○地場産業である「知多牛」の食材としての市場評価は大きく向上した。その反面、臭気公害の改善は乏しいので、今後、この問題をクローズアップし、一歩ずつ改善することが望まれる。

○バイオマス発電が2ヶ所で稼働しますが、家庭から排出する、廃材、枯れ草、剪定枝なども原材料として扱ってほしい。

1-2-1

○交通渋滞の緩和は大きな課題である。

○巡回バス（ごんくるバス）はありがたいが、さらなる有効活用が望まれる。

○交通事故防止や日本福祉大学の学生や半田東高校の生徒のためにも、JR武豊線の亀崎駅の移転をふまえた整備・または新しい駅の新設が必要である。

○今後、自動車運転免許の返納にも関連し、自転車道整備に力を入れていただきたい。

○ゴミ等のポイ捨て、犬・地域猫の糞害の改善に期待する。

柱2 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち

2-1 温室効果ガス排出量の削減	パートナーシップ会議評価
2-1-1 市内の温室効果ガス排出量を把握し、地球温暖化対策を各分野ごとに効果的に推進します。	各委員評価
2-1-2 産業・業務部門での対策を推進します。	A A
2-1-3 運輸部門での対策を推進します。	0 人
2-1-4 家庭部門での対策を推進します。	B
2-1-5 市（行政）において率先して行動します。	10 人
2-2 資源循環型社会の構築	A
2-2-1 ごみを出さない（発生抑制）ライフスタイルや事業活動を促進します。	2 人
2-2-2 リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）を推進します。	C
2-2-3 廃棄物の適正処理を推進します。	0 人
2-3 環境に配慮した事業活動を推進します。	 AA 良好です
2-3-1 環境マネジメントシステムの導入促進を図ります。	 A 概ね良好です
2-3-2 事業者による周辺住民との自主的なリスクコミュニケーションを促進します。	 B 改善・見直しの必要があります
2-3-3 中小企業等の環境に配慮した事業活動を推進します。	 C 改善・見直しを行い、一層の努力が必要です
【評価できる点】	
2-1 全体に関すること	
○温室効果ガス排出量の削減に向けての取り組みは、各部門で多くの企業や市民との協同・連携が実践されていて、評価できる。	
2-1-3	
○「ごんくるバス」の運行を開始した事は評価できる。	
2-1-4	
○家庭部門での電力使用量、環境配慮型住宅用設備導入件数、CO ₂ 排出量の削減が目標を達成されている。	
○太陽光発電の導入が進み、CO ₂ 排出量削減が順調に推移した点。	
○住宅用太陽光発電システム導入件数が増加し、大幅に目標達成は評価できる。	
○環境配慮型住宅用設備の導入状況が、目標を大幅に上回っていることは評価できる。	
○温室効果ガスの排出量が家庭部門においては目標値を十分にクリアしている点	
○温室効果ガスは数値的に目標をクリアしており評価できる。	
○環境学習イベント募集の際、「エコファミリー登録家族優先」を目にする機会が増えた。	
2-1-5	
○緑のカーテン設置の事業は近年の酷暑に対し、極めて当を得ており評価できる。	
2-2-1	
○総ゴミ量が対 H19 年比△15.7%は評価できる。	

○市民1人1日当たりのごみ排出量は、環境行政の根幹のバロメーターであり、それが着実に改善されつつあることは評価できる。

2-2-2

○バイオマス利用が事業者と大学と連携して進められた点。

【今後の課題及び期待したい点】

2-1

○エコ事業所登録数、エコファミリー登録世帯が失速している。

2-1-2

○エコ事業所登録企業のエコ企業であるPRを市民にしていくと良いと思う。

○エコ事業所登録数目標値の見直し及び中身の充実も必要。

2-1-4

○地球環境の保全は、半田市の全ての活動をCO₂換算値で捉え、それによる①改善の効果②今後の改善の重点対象を決めるべきであるので、国、県の按分値ではなく「簡便法」にて、半田市の実績値を算出し、改善の指標とすべきである。例えば「1人1日1kg CO₂削減活動」などにより、環境意識とモデル活動を、再構築をする必要がある。

○電気、ガスなど熱エネルギー供給は、技術革新と政府の誘導政策で大幅に改善できることが証明されたが、市民ひとり一人が身近にできることへの意識付けが大切と感じる。

○環境配慮型住宅用設備の導入は、自然災害時における停電や断水等の対策と関連させた取り組みを期待したい。

○災害対策を含めた太陽光発電にプラスした蓄電システムの普及に期待します。

○自主的にエコファミリーに登録したいと思うような事を考えていきたい。

2-2-1

○広域化に伴う制度変更のタイミングでの積極的なごみ減量施策の実施。

○生活系ごみ排出量が目標通り削減されていない。市民に対して減量の必要性、具体的手段等の教宣活動を一層進める必要がある。また、今後ごみ処理の有料化に伴う、削減効果に期待する。

○ゴミの減量を進めるための効果的な施策は何かを再検討するべきである。家庭系ごみ有料化に効果があることを願う。

○生活系ごみの1日1人当たりの排出量について、より細やかに市民への啓発を行うなどにより削減していくことを期待する。

○家庭ごみ減量（生活系）は、年間、市民1人当たり10gを減らす攻防戦、市民から見れば具体的に何をすれば効果的か明示することが重要、袋値上げは3Rなどの啓もう活動が減退する。

○生活ごみ排出量の減量がなかなか進まない点と、リサイクル率が上がらない点については、今後、市民に対しての環境学習を丁寧にしていただき、市民一人ひとりができる行動を具体的に周知してもらいたい。

○知多南部広域環境センターにおける環境学習と環境行動の拠点整備。

○生活系ごみの資源化を進める。焼却処分からの転換、飼料化、堆肥化、バイオマスなど地域営農者との連携で資源化を検討する。

2-2-2

○リサイクル率が低どまりで推移している。現状分析必要。

○リサイクル率に代わる分かりやすい数値の表示方法に期待する。

2-3

○熱エネルギー供給システムなどは、市民参加の共同事業を参画し、より身近な問題としていく。

柱3 豊かな自然を守り、自然と共生するまち

3-1 うるおいのある緑・水空間の整備 3-1-1 緑や水と親しみ、身近に感じられる場を保全・創造します。 3-2 生物多様性の保全 3-2-1 生態系ネットワークに配慮した自然環境保全及び整備を推進します。 3-2-2 特定外来生物についての対策を図ります。 3-3 環境面からの農業振興 3-3-1 環境保全機能を持つ農地を保全します。 3-3-2 緑地確保のため農地の活用を図ります。 3-3-3 地産地消を推進します。	パートナーシップ会議評価			
	各委員評価			
	AA	0人	B	1人
	A	10人	C	1人
		良好です		
	AA			
		概ね良好です		
	A			
		改善・見直しの必要があります		
B				
	改善・見直しを行い、一層の努力が必要です			
C				

【評価できる点】

3-1-1

○自然とふれあうことのできる公園や河川が多くできたことは市民も喜んでいて評価できる。

○1人当たりの公園・緑地面積が目標以上に進展している。

○1人当たりの公園・緑地面積が増えるとともに、整備も進み、自然に触れあい楽しめる公園や河川が多くできてきたことは評価できる。

○1人当たりの公園・緑地面積が目標を大きく上回っており、自然に触れ合える公園、河川等が整備されていることは評価できる。

○公園・緑地が整備され1人当たりの面積が増えている点は評価できる。

○公園や緑地が整備されて、増えていっていることは評価できる。

○公園が整備されている点は評価できる。

○公園面積が増加している。

○親水性を考慮した河川の整備がよくされている点は評価できる。

○半田市は、多岐に渡る緑と水に恵まれ、それが維持され、少しずつ改善されている。特に、セントラルパークである「雁宿公園」が計画的に整備されたことは評価できる。

3-2-1

○自然観察会の開催が定期的に行われている。

○「水生生物調査」や「自然観察会」は環境教育の基礎でありながら、大変手間暇のかかる活動であり、その継続は評価できる。

○「はんだ水辺マップ」を作成・配布し、環境に対する意識の向上に役立っていることは評価できる。

3-3-1

○耕作放棄地の削減に向けて、何らかの対策がなされること。

○少子高齢化の進展は、更なる耕作放棄地を拡大させると考えられる。農業法人等による大規模農場等の施策が必要である。

【今後の課題及び期待したい点】

3-1-1

- 1人当たりの公園・緑地面積は、他の市町村と比較しまだ少なく、更に充実させていく必要がある。
- 公園整備が完了したで完結でなく、その公園の利用状況や新たな問題点がないのか、完了後のフォローと費用対効果、有効性の確認等を行い、今後の施策に活かす取り組みが必要。また、緑地は生活の場にあることが理想であり、各住居や工場等の緑化の推進と量的把握を行い、その推移も環境基本計画評価に加えるべきである。
- 自然観察機能、散歩ジョギングなど健康維持機能、学童対象の機能など、多様性を備えた総合公園を増やしてほしい。
- 公園面積と公園設置個所は増加している一方で、公園遊具の老朽化や交換が追い付いていない。

3-2

- 「希少野生動植物調査」「特定外来生物の調査」等の項目は環境に関わる重要な項目であるが、実施不可の場合は、評価について検討の必要がある。

3-2-1

- 希少野生動植物の生息調査を実施し実態把握を行い、自然環境保全（生物多様性）についての啓発に期待します。

3-3-1

- 耕作放棄地の面積が増え続けている点について、他の自治体の成功事例を参考にしたり、市民へのアンケートなどでアイデアを募ったり、企業との連携を図ったりするなどして改善していくことを期待する。
- 耕作放棄地問題について、もっと市民に知ってもらい、問題解決策をみんなで考えるようになることを期待する。
- 耕作放棄地について農業を行いたい人に紹介する等のシステム整備が必要。
- 市民農園も現状維持にとどまらず、耕作放棄地の有効活用に繋げることも検討して欲しい。
- 耕作放棄地の有効活用に期待したい。
- 耕作放棄地をバーベキュー施設を併設した家族で参加しやすい市民農園にしてほしい。

3-3-3

- 道の駅等の地元農産物の販売の場の整備。

柱4 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にするまち

4-1 美しく半田らしい景観の整備 4-1-1 美しいまち並みを保全・創造します。 4-2 歴史的・文化的環境資源の保全と継承 4-2-1 地域の歴史的・文化的資源を保全・継承するとともに、環境に配慮した観光資源の整備を推進します。 4-3 ゆとりややすらぎ、活気のある空間の整備 4-3-1 公園や広場等の市民が憩う場の整備を推進します。 4-3-2 環境に配慮した中心市街地の整備を推進します。	パートナーシップ会議評価			
	各委員評価			
	AA	0人	B	1人
	A	11人	C	0人
	 AA	良好です		
	 A	概ね良好です		
	 B	改善・見直しの必要があります		
	 C	改善・見直しを行い、一層の努力が必要です		
	【評価できる点】			
4-1-1 ○景観整備が進み、イベント開催についても環境に配慮した運営がなされるとともに、魅力あるまちづくりについて、SNSを活用した取り組みがなされ、幅広い世代に伝わったことは評価できる。 ○半田市景観の保護活用がされている。(赤レンガ、半田運河、南吉記念館周辺) ○半田運河周辺の景観整備、イベント開催は評価できる。 ○半田運河周りの景観とともに、開催されるイベントも集客力を付けてきており、このことは評価できる。 ○半田運河周辺の景観整備は、日本三大運河に相応しくなった。				
4-2-1 ○南吉ゆかりの地に関する事業について評価できる。 ○地域の歴史的遺産が整備され、市民に分かりやすく、また、観光資源としても充実しつつあることは評価できる。 ○歴史的・文化的資源が保全・継承されていることは評価できる。				
4-3-1 ○子どもが安心して遊べる場や市民がふれあう憩いの場が増えた整備をなされてきたことは評価できる。 ○年々整備が広がり、憩える場所が増えていることは喜ばしい。				
【今後の課題及び期待したい点】				
4-1-1 ○歴史ある建造物や、それに伴う文化について、市民や観光客を含め、様々な方の意見を取り入れた景観形成を進めていただきたい。 ○J R半田駅周辺の区画整理や武豊線の高架化により、東西の往来の活発化により、かつての銀座通りの賑わいの復活に期待したい。				

○町を歩くと空き家が目立つ。空き家が有効活用できるシステムづくりも必要。

4-2-1

○半田市の素晴らしい歴史や文化についての知識を市民がよく理解していないことは課題であり、広く定着していくことを期待したい。

○赤レンガ、南吉記念館、彼岸花、ミツカンミュージアム、半田運河、山車まつり等ひとつの線として、繋がった観光コースとして定着できるようイベント等の充実が必要である。

○半田の山車文化・歴史の更なるPR発信の充実を期待します。

○戦争関連の資料が整備されていないように感じます。

○半田市は多くの歴史と遺産を有するが、その説明、プレゼンが未だ他の市町村と比較すると劣る。ミツカンミュージアムの好例に習い、半田市博物館の展示方法などの工夫をすることが必要である。

○地域の文化遺産として、残された巨樹を大切にすることが有る。その保存と意義づけのために番付表などを作り、分かりやすくすることが考えられる。

○郷土に愛着が持てるよう、郷土の歴史や文化的価値を見直す取り組みが必要。

○歴史的・文化的のPR方法を改良し、一層の魅力づくりにつなげることを期待する。

4-3-1

○１人当たりの公園・緑地面積は目標を達成しているが活用されているか満足度はどうかも考えていくと良い。

○市民の満足度や公園機能に何を求めるか市民アンケートの実施をすべきである。

○１人当たりの公園・緑地面積の長期目標を再検討する必要がある。（項目名も「１人当たりの公園面積」が一般的）

柱5 みんなで環境を守り育てるまち

5-1 環境学習の推進

- 5-1-1 あらゆる世代への環境学習を支援します。
- 5-1-2 地域と学校が連携した環境学習を推進します。
- 5-1-3 環境学習指導者や地域での環境活動の担い手となる指導者を養成します。

5-2 市民・事業者・行政による良好なパートナーシップの形成

- 5-2-1 地域・事業者・行政など各主体間の連携を図ります。
- 5-2-2 各主体間における環境情報の共有及び活性化を図ります。
- 5-2-3 環境NPOや環境保全団体等の育成及び活動を支援します。

パートナーシップ会議評価

各委員評価

AA	0人	B	2人
A	10人	C	0人



AA

良好です



A

概ね良好です



B

改善・見直しの必要があります



C

改善・見直しを行い、一層の努力が必要です

【評価できる点】

柱5全体に関すること

- 環境学習イベント参加人数及びアダプトプログラム登録者数が、目標を上回っているのは評価できる。
- 環境学習イベント参加人数及びアダプトプログラム登録者数は目標を継続的に上回っている。
- 環境学習イベント参加人数やアダプトプログラム登録者数が増えていることは評価できる。
- 環境学習イベント参加人数、アダプトプログラム登録者数が、目標を達成している点は評価できる。

5-1-1

- 市民参加型の環境学習イベントや学校への環境学習出前講座は粘り強く継続されていて、効果が表れてきていることは評価できる。
- 環境学習イベントが開催されている点は評価できる。
- 学校への環境学習出前講座は、環境に興味のない親の子どもも参加できるので評価できる。
- 環境学習は将来の環境保全に、極めて重要である。その観点から、地道に展開していることは評価できる。
- 環境分野に関する行事への参加者が増加傾向。

5-2-1

- 環境学習事業について、事業者と行政の連携が図られている点は評価できる。

5-2-3

- アダプトプログラム登録者数は目標値をクリアできており、市民協働が機能している点は評価できる。
- アダプトプログラムの登録者人数が目標を達成していること。
- 長年確かな活動実績のある「半田こどもエコクラブ」への継続する支援は評価できる。

【今後の課題及び期待したい点】

全体

- 全世代に対応できる環境教育の開催が必要である。また、環境に対する身近な問題意識や知識を得た子どもや大人が、その知識を活用し、環境を守り育てる活動をしてくれることに期待すると共に、活動しやすい環境を行政として整備していくべきである。
- 環境の範囲は膨大で各課に関係する。環境課は各課を注視するとともに地域や学校等とのコーディネートに今後も頑張ってもらいたい。
- 生活系ごみ、プラごみ対策に特化した環境学習を企画していただきたい。また、その際は、製造メーカー、販売業者も参加してほしい。
- 広域クリーンセンターにおける環境学習と環境行動の拠点整備。

5-1-1

- 環境学習活動を子ども、大人、外国人など、すべての市民に向けて企業の協力も受けて、推進していただきたい。
- 市民（大人）に対する環境学習をどう取り組んでいくか、意識をどう変えられるかが課題である。（リサイクル率はなかなか上がってこないし、ゴミのポイ捨ては依然と多い）
- 未就学児童に対する環境学習事業をより充実することを期待する。

5-2-1

- 企業支援による環境学習の推進に期待する。

5-2-3

- アダプトプログラム登録団体目標未達。長期目標数値の見直しも必要。
- アダプトプログラム登録者数増なのに登録団体数の伸び悩みの原因は何かを把握する必要があるのではないかと考えます。
- アダプトプログラムの周知に期待する。（知らない市民が多いのでは？）
- アダプトプログラムは環境の専門用語であり、分りづらい。その意義と具体的な実践法を分かりやすく説明し、着実に展開する事が必要である。